



ハーフマラソン種目でスタートを切ったランナー



スターターを務める川田市長

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

八幡市民マラソン大会

1594人 爽快ラン

12月1日、2024八幡市民マラソン大会が市民スポーツ公園を発着点に開催。市内外から参加した1594人が木津川左岸堤防沿いや上津屋工業団地などのコースを力走しました。同大会は、市スポーツ協会や市などで行く大会実行委員会が主催。ハーフマラソン、10km、3km、2kmのコースが設けられ、性別や年齢別の15種目に分けて実施されました。スターターの号砲が鳴り、ランナーは勢いよくスタート。横風に苦戦しながらも、沿道からの「ナイスラン！」などの声援を背に、



10km種目で木津川左岸堤防沿いを走る竹澤さん(手前左)

八幡路を駆け抜けました。また、北京五輪代表で摂南大学陸上競技部ヘッドコーチの竹澤健介さんはゲストランナーとして10km種目に出走し、ランナーと交流しながら完走。同部員もボランティアとして



大会を支えました。大会会長の川田市長も出場した親子ペア種目では、小学2年生以下の子どもと保護者が励まし合いながら力走。最後は手をつなぎ、笑顔でゴールしていました。

大根ツリー 700本 円福寺

八幡福祿谷にある臨済宗の修行道場・円福寺で、大根を境内のイチョウの大木につるす「大根干し」が、12月17・18日に行われました。白い大根が木に鈴なりになる姿から、「大根ツリー」と呼ばれています。同寺では、年末に修行僧が周辺の托鉢先の農家などから集めた大根を干すのが恒例。今年は猛暑などで大根が不作だったものの、約700本が揃いました。修行僧は、高さ約15mの木にはしごをかけて登り、木の根元にいる修行僧が滑車とロープで上げた大根の束を受け取り、枝にかけていきました。約10人で声を掛け合いながら作業を進め、2日目の昼頃に全ての大根をかけ終えると、「大根ツリー」が登場。見物に訪れた人の目を楽しませていました。大根は、3週間ほど干したあと、たるに漬けてたくあんに



イチョウの木に大根をつるす修行僧

し、春と秋に行う同寺の大祭「万人講」で、精進料理として参拝客にも振る舞われます。

子育てに寄り添い10年

おひさまテラス

誕生祭 市長らと祝う

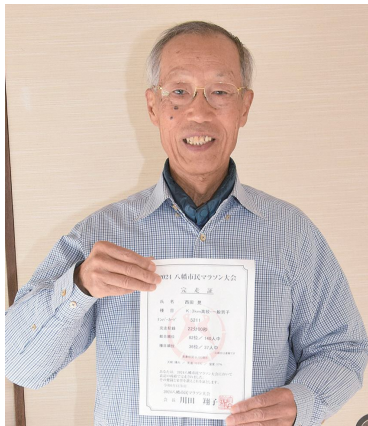
子育て支援施設「おひさまテラス」の10周年誕生祭が、12月3日に開催。大西美和子代表らスタッフと利用者が、川田市長らと節目を祝いました。同施設は、男山地域まちづくり連携協定の子育て支援の取り組みの一環として、男山団地A地区集会所内に平成26年12月に開設。以降、子どもには楽しい遊び場として、保護者には保護者同士やスタッフとの交流の場として、地域の子育て世帯に親しまれてきました。一時預かりも実施に取り組んでいます。当日は、スタッフや利用者のほか、川田市長らもお祝いに駆け付



スタッフや利用者、川田市長らとお祝いの誕生祭

け、くす玉割りなどのセレモニーを実施。スタッフから「感謝状」を贈られた大西代表は、「10年間で1万人以上が利用してくれた。若いスタッフも増え、これからも力を合わせてできる限りの支援をしたい」と、喜びと意気込みを語っていました。

今月のこの人 「周囲に共感を」80歳代のランナー



82歳で2024八幡市民マラソン大会の3km種目に出場し完走。普段は健康増進のため石清水八幡宮でラジオ体操やジョギングを行う傍ら、男山展望台周辺のごみ拾いや地域福祉委員などの活動にも携わる。市内在住。

西田晃さん

「健康づくりはもちろん、他の参加者など人とのつながりが生まれることが楽しみ」と、マラソンのやりがいを語る西田晃さん。50歳からマラソンを始め、全国各地の大会でハーフマラソンや30km種目に出場。ある大会で出会った95歳のランナーの姿に感銘を受け、「マラソンを続けるうえで一つの目

標になった」と語ります。日ごろは趣味の茶道や自転車などを楽しむ一方、地域のボランティア活動も精力的に行う西田さん。八幡市民マラソン大会の翌日、小学生の登下校の見守り中に、同大会に出場したという児童や保護者との会話に花が咲くなど、世代を超えて交流の輪が広がる様子に大きな喜びを感じまし

た。「長生きすればそのぶん人のために良いことができる。私の姿を見て頑張ろうと思う人がいるとうれしいし、周囲に共感を与えられる人でいたい」と、これからは豊かな人生を歩むため、人との縁を大切に共感の輪を広げていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。